

〔大和物語〕上 泉の大將國 ○定左のおほいどの時平 藤原にまうでたまへりけり、ほかにて酒などまい

りゑひて、夜いたくふけてゆくりなくものし給へり、おとゞおどろき給て、いづくにもものし給へるたよりにかあらんなど聞え給て、みかうしあけさはぐに、みぶのたゞみね御ともにあり、みはしのもとにまつともしながら、ひざまづきて御せうそこ申す、

かさ、ぎのわたせるはしの志ものうへをよはにふみわけことさらにこそ、となんのだまふと申す、あるじのおとゞいと哀におかしておぼして、そのよひとよおほみきまいりあそび給ひて、大將に物かづきたゞみねもろくたまはりなどえけり、

〔源順集〕七月七日女庭におりゐて七夕まつる、男來てますい垣のもとにたてり、

名にしおひばかさ、ぎの橋わたす也別る、袖は猶やぬるらん

〔新古今和歌集十八〕鶺鴒

彦星の行あひをまつかさ、ぎの渡せる橋をわれにかさなん

〔八雲御抄三上〕橋

紅葉のはし誠にあるにはあ、
らす、たとへなり、

〔書言字考節用集二〕乾坤紅葉橋或云、本字紅羽、本朝

〔古今和歌集四〕題えらす

天野川もみぢをはしに渡せばやたなばたつめの秋をしもまつ

〔新古今和歌集十七〕題えらす

天の川かよふうき木にこと問ん紅葉の橋はちるやちらすや

〔源氏物語五十四〕夢浮橋

〔河海抄二十〕夢浮橋略 ○中

菅贈太政大臣

讀人えらす

藤原實方朝臣